

2022 年度

# 事業報告書

自 2022 年 4 月 1 日

至 2023 年 3 月 31 日

学校法人 純心女子学園

長崎市三ツ山町 235 番地

# 学校法人 純心女子学園 事業報告

## 1. 法人の概要

### (1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人 純心女子学園
- ② 主たる事務所の住所 長崎県長崎市三ツ山町 235 番地  
電話番号 095 (846) 0084  
Fax 番号 095 (840) 0470  
ホームページアドレス <https://www.n-junshin.ac.jp>

### (2) 建学の精神

【学園標語】 マリアさま いやなことは私がよるこんで

#### 【学園の建学の精神】

～ 寄附行為より ～

カトリックの精神に基づき人格教育を施し、もって有意な人材を養成するため、教育基本法及び学校教育法並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行う。

#### 【長崎純心大学の教育理念】

長崎純心大学は、カトリシズムの建学の精神に基づき、学術の中心として、真理を求め、広い知識と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力の展開による全人教育に努め、地域と世界に貢献し得る有能な人物を育成すると共に、人類の平和及び文化と福祉の展開に寄与することを目的としている。

#### 【長崎純心大学の教育目標】 知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する “Sapientia et Servitium”

江角ヤス初代学園長が学園に学ぶ学生に説き続けられたのは、「聖母マリアのように神と人々に喜ばれる人間」になるように励むことであった。大学のモットーである「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する—知恵と奉仕—」は、学園長江角ヤスの教えの具体的な教育目標を示すものである。

#### 【純心女子高等学校・純心中学校の教育目標】

聖母マリアのように、神様にも人にも喜ばれる清く、賢く、優しい女性の育成を目指している。喜んで人のために奉仕し、平和のために貢献できるよう育てる。

#### 【純心幼稚園の教育目標】

純心幼稚園が大切にしていることは、一人ひとりの子どもが神様にとって、かけがえのない「ひとり」であるという、カトリックの精神である。モンテッソーリの幼児教育に基づいて、神様に愛されていることを喜び、感謝し、心からその愛に応えられるように、子どもたちを育むことを目指している。

### (3) 学校法人の沿革

- 1934年 6月 学園設置母体である純心聖母会創立
- 1935年 4月 純心女学院創立（長崎市西仲町（現在の中町））
- 1936年 4月 高等女学校令に基づく財団法人長崎純心高等女学校開設
- 1937年 3月 長崎市家野町（現在 文教町）に校舎落成し移転
- 1938年 4月 純心幼稚園開設
- 1940年 5月 純心保姆養成所開設（当時 九州唯一の保姆養成所）
- 1945年 8月 原爆により校舎全焼 214名の職員・生徒殉難
- 1945年 10月 大村市植松町（元 大村海軍航空廠工員寄宿舎）にて授業開始、昭和24年4月に長崎市に復帰
- 1947年 4月 純心中学校開設
- 1947年 5月 純心女子専門学校（神学科・被服科）開設
- 1948年 4月 純心女子高等学校開設
- 1950年 4月 純心女子短期大学社会科開設（純心女子専門学校を母体とする）
- 1951年 2月 学校法人純心女子学園認可
- 1951年 4月 純心女子短期大学保育科開設（純心保姆養成所を母体とする）
- 1951年 4月 聖心幼稚園開設
- 1967年 4月 西彼純心幼稚園開設
- 1975年 4月 純心女子短期大学 長崎市三ツ山町 235番地に移転
- 1983年 4月 純心女子短期大学英米文化科開設
- 1988年 4月 純心幼稚園改築 純心こども図書館を併設
- 1989年 4月 純心女子短期大学社会科に人文社会専攻及び社会福祉専攻設置
- 1991年 4月 純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）開設
- 1992年 4月 純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）学位授与機構認定
- 1992年 4月 純心女子短期大学専攻科（保育専攻）開設
- 1993年 12月 長崎純心大学設置認可
- 1994年 4月 長崎純心大学 人文学部（比較文化学科・現代福祉学科）開設
- 1995年 3月 純心女子短期大学社会科人文社会専攻廃止・専攻科人文社会専攻廃止
- 1995年 4月 純心女子短期大学社会科を社会福祉科に学科名称変更
- 1996年 4月 純心女子短期大学専攻科（保育専攻）学位授与機構認定
- 1998年 4月 長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻修士課程開設
- 2000年 3月 純心女子短期大学社会福祉科廃止
- 2000年 4月 長崎純心大学人文学部人間心理学科開設
- 2000年 4月 長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程開設
- 2000年 4月 純心女子短期大学を長崎純心大学短期大学部に名称変更
- 2001年 3月 長崎純心大学短期大学部英米文化科廃止
- 2001年 4月 長崎純心大学人文学部英語情報学科開設
- 2003年 4月 長崎純心大学人文学部児童保育学科開設
- 2007年 3月 長崎純心大学短期大学部廃止
- 2007年 6月 長崎純心大学附属純心保育園開設
- 2008年 3月 西彼純心幼稚園廃止
- 2008年 4月 認定こども園認定（純心幼稚園・純心保育園）
- 2015年 4月 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園に移行（←純心幼稚園・純心保育園）
- 2015年 12月 純心女子学園創立80周年
- 2017年 3月 聖心幼稚園廃止
- 2017年 4月 長崎純心大学人文学部現代福祉学科を地域包括支援学科に学科名称変更
- 2018年 4月 長崎純心大学人文学部比較文化学科と英語情報学科を統合し、文化コミュニケーション学科を開設
- 2018年 4月 長崎純心大学人文学部児童保育学科をこども教育保育学科に学科名称変更
- 2019年 4月 長崎純心大学において全学科男女共学制

## (4) 設置する学校・学部・学科等、設置する幼保連携型認定こども園

学校名	学部等	開設年月日	所在地
長崎純心大学	大学院		長崎市三ツ山町 235 番地
	人間文化研究科 (修士)	1998 年 4 月 1 日	
	人間文化研究科 (博士)	2000 年 4 月 1 日	
	人文学部		
	比較文化学科	1994 年 4 月 1 日	
	地域包括支援学科*	1994 年 4 月 1 日	
	人間心理学科	2000 年 4 月 1 日	
	英語情報学科	2001 年 4 月 1 日	
こども教育保育学科*	2003 年 4 月 1 日		
文化コミュニケーション学科	2018 年 4 月 1 日		
純心女子高等学校	全日制課程普通科	1948 年 4 月 1 日	長崎市文教町 13 番 15 号
純心中学校		1947 年 4 月 1 日	長崎市文教町 13 番 15 号
幼保連携型認定こども園* 長崎純心大学附属純心幼稚園		2015 年 4 月 1 日	長崎市文教町 13 番 15 号

※ 長崎純心大学人文学部 地域包括支援学科は、2017 年 4 月、こども教育保育学科は、2018 年 4 月名称変更。

※ 幼保連携型認定こども園は、純心幼稚園 (1937 年 4 月 1 日開園)、純心保育園 (2007 年 6 月 1 日開園) より移行。

## 学校・学部・学科等の学生数の状況 (2022 年 5 月 1 日現在)

## ① 長崎純心大学

学年	学部	学科	入学定員	2022. 5. 1 現在	備考
1	人文学部	文化コミュニケーション学科	80	67	
		地域包括支援学科	100	93	
		こども教育保育学科	100	90	
	人間文化研究科 (博士前期課程)	15	12		
	人間文化研究科 (博士後期課程)	3	0		
	小 計		298	262	
2	人文学部	文化コミュニケーション学科	80	93	
		地域包括支援学科	100	107	
		こども教育保育学科	100	104	
	人間文化研究科 (博士前期課程)	15	9		
	人間文化研究科 (博士後期課程)	3	0		
	小 計		298	313	
3	人文学部	文化コミュニケーション学科	80	94	
		地域包括支援学科	100	100	
		こども教育保育学科	100	127	
	人間文化研究科 (博士後期課程)	3	2		
	小 計		283	323	
4	人文学部	比較文化学科	-	2	
		文化コミュニケーション学科	80	88	
		地域包括支援学科	100	96	
		人間心理学科	-	2	
		こども教育保育学科	100	127	
	小 計		280	315	
合 計			1, 159	1, 213	

② 純心女子高等学校

学年	課程名	入学定員	2022. 5. 1 現在	備 考
1	高等学校全日制課程普通科	150	118	
2		180	123	
3		180	116	
合 計		510	357	

③ 純心中学校

学年	課程名	入学定員	2021. 5. 1 現在	備 考
1	中学校	80	43	
2		80	41	
3		80	49	
合 計		240	133	

④ 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

幼保連携型認定こども園	利用定員	2022. 5. 1 現在	備 考
長崎純心大学附属純心幼稚園	230	206	認可定員 250

(6) 収容定員充足率（各年度5月1日）

(%)

学校名	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
長崎純心大学大学院	58.9	51.2	51.3	53.9	63.9	70.6	69.2
長崎純心大学	106.2	105.1	98.5	89.9	84.8	89.6	94.5
純心女子高等学校	70	70.9	70.7	72.9	70.1	74.1	75.5
純心中学校	55.4	57.9	62.9	64.6	73.8	77.5	85.0

(7) 役員の概要

理事 7～9名 監事 2名

職 名	号	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	備 考
理事長	4	山 田 幸 子	2018年4月1日 2021年4月1日*	常 勤	学校法人純心女子学園理事長
理 事	1	木 村 美由紀	2022年3月7日	非常勤	宗教法人純心聖母会責任役員
	2	片 岡 瑠美子	2014年4月1日	常 勤	長崎純心大学長
	3	佐 古 照 美	2020年4月1日	常 勤	純心女子高等学校・純心中学校長
	4	松 本 俊 穂	2020年4月1日	常 勤	長崎純心大学人文学部長・教授
	4	久保田 浩	2019年4月1日	常 勤	純心女子学園・長崎純心大学事務局長
	5	中 村 倫 明	2022年4月1日	非常勤	カトリック長崎大司教区教区長
監 事	5	片 峰 茂	2019年9月9日	非常勤	地方独立行政法人長崎市立病院機構理事長
		松 下 清	2019年4月1日	非常勤	元長崎県代表監査委員
		浦 稔 美	2021年4月1日	非常勤	元長崎県監査事務局長

※ 理事の号数 第1号…宗教法人純心聖母会責任役員 第2号…長崎純心大学長 第3号…純心女子高等学校長  
第4号…評議員のうちから評議員会において選任された者  
第5号…法人に関係ある学識経験者及び功労者のうち理事会において選任された者

\*は理事長就任年月日

(8) 評議員の概要

評議員 17～21人

号	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	備考
1	木村 美由紀	2022年3月7日	非常勤	宗教法人純心聖母会責任役員
	片岡 瑠美子	2000年9月25日	常勤	長崎純心大学長
	佐古 照美	2020年4月1日	常勤	純心女子高等学校・純心中学校長
	中村 倫明	2022年4月1日	非常勤	カトリック長崎大司教区教区長
	片峰 茂	2019年9月9日	非常勤	地方独立行政法人長崎市立病院機構理事長
2	吉武 久美子	2018年5月25日	常勤	長崎純心大学大学院人間文化研究科長・教授
	石田 憲一	2020年4月1日	常勤	長崎純心大学人文学部こども教育保育学科長・教授
	久保田 浩	2017年4月1日	常勤	純心女子学園・長崎純心大学事務局長
	甲斐 秀二	2018年4月1日	常勤	長崎純心大学総務部長
	笹栗 淳子	2021年4月1日	常勤	長崎純心大学学事部長・教授
	玉城 雄一	2013年4月1日	常勤	純心女子高等学校・純心中学校教頭
	池井 大仙	2016年4月1日	常勤	純心女子高等学校・純心中学校・幼稚園事務長
3	山頭 照美	2014年4月1日	常勤	長崎純心大学人文学部教授
	池田 洋子	2014年4月1日	常勤	長崎純心大学附属純心幼稚園長
	岩永 由起子	2019年4月1日	常勤	純心女子学園・長崎純心大学総務課長
4	山田 幸子	2011年5月10日	常勤	学校法人純心女子学園理事長
	松本 俊穂	2021年4月1日	常勤	長崎純心大学人文学部長・教授
	山下 肇	2016年4月15日	非常勤	山下肇法律事務所弁護士
	出口 啓二郎	2004年5月11日	非常勤	社会福祉法人長崎県社会福祉協議会会長

※ 評議員の号数 第1号…理事のうちから理事の互選によって定められた者  
 第2号…法人の職員で理事会において選任された者  
 第3号…法人の設置する学校を卒業した者（年齢25年以上）のうち理事会において選任された者  
 第4号…法人に関係ある学識経験者及び功労者のうち理事会において選任された者

(9) 教職員の概要

区分 部門	教 員							職 員						
	専任教員							契約 教員	非常勤 教員	教員 合計	専任	契約	非常勤	職員 合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭 教諭 保育教諭	計							
法人							0			0	1			1
長崎純心大学	27	17	11	3	0		58	0	154	212	30	7	17	54
純心女子高等学校						32	32	2	5	39	6	1	4	11
純心中学校						13	13	1	4	18	0	1	3	4
幼保連携型認定こども園 純心幼稚園						19	19	0	22	41	3	0	11	14

(10) その他

設置母体 宗教法人純心聖母会

姉妹校 学校法人東京純心女子学園  
 東京純心大学 東京純心女子高等学校 東京純心女子中学校

学校法人鹿児島純心女子学園  
 鹿児島純心女子大学 鹿児島純心女子短期大学 鹿児島純心女子高等学校  
 鹿児島純心中学校 幼保連携型認定こども園鹿児島純心女子大学附属純心幼稚園

## 2. 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要 (2022 年度)

= 学位授与の方針 (ディプロマポリシー) =

〈人文学部〉

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

〈人間文化研究科〉

カトリシズムの精神にのっとり創設されている長崎純心大学大学院人間文化研究科は、博士前期課程 (前期2年、学位：修士)、博士後期課程 (後期3年、学位：博士) で構成されている。研究分野は文化、福祉、心理、教育・保育の分野からなり、各分野においてその学術理論及び応用実験を攻究し、その成果をもって文化、社会の発展に寄与することを目的としています。

博士前期課程

この目的を達成するための指針

1. 各研究分野における幅広い学問の基礎的能力
2. 高度な専門知識と倫理観をもとにした多角的思考力と分析力
3. 専門領域における問題解決力と専門職としての実践力

これらを身につけた上で修士論文または特定の課題の研究成果の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (修士) を授与します。

博士後期課程

この目的を達成するための指針

1. 十分な学術専門知識
2. 新たな知を創造する研究能力
3. 各研究分野における優れた学術的な成果

これらを満たした上で博士の学位論文の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (博士) を授与します。

= 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラムポリシー) =

〈人文学部〉

#### 【教育課程の編成】

人文学部では、学位授与方針 (ディプロマポリシー) を達成するために4年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の3つの科目群によって編成します。

#### 【教育内容・方法等】

「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学芸を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

#### 〈人間文化研究科〉

本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を取得させるため、次のような体系的な教育課程を編成し、身につけるべき力を定めています。

##### 博士前期課程

1. 博士前期課程には、統合科目、基軸科目、展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、統合科目を履修し、また、他分野の基軸科目を履修することが可能であり、それによって多角的思考力や分析力を身につけます。
3. 本課程では、専門分野の基軸科目、展開科目を履修することによって専門分野における問題解決力、専門職としての実践力を身につけます。

##### 博士後期課程

1. 博士後期課程には基軸科目、総合展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、基盤科目の履修により、十分な学術専門知識および新たな知を創造する能力を身につけます。
3. 本課程では、総合展開科目により各研究分野で学術的な成果を上げるための実行力を身につけます。

#### ＝ 学習成果の評価（アセスメントポリシー） ＝

##### 〈人文学部〉

人文学部全体としての学修成果の評価は、①学習時間・学習経験等に関するアンケート調査、②全科目を対象とする授業アンケート、③GPA並びに単位取得状況によって行います。

講義科目は、知識の習得に加え、論理的思考力、記述力、読解力、発言力について学期末試験、授業内で臨時試験、レポート提出、リアクションペーパーなどによって評価します。

演習科目は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する力について、論文やレポート提出、プレゼンテーションなどによって評価します。

##### 〈人間文化研究科〉

##### 博士前期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る研究発表
3. 学位請求論文

##### 博士後期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る学内外での研究発表
3. 学位請求論文

#### ＝ 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー） ＝

##### 〈人文学部〉

長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。

各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに習得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような\*入学生の受け入れを目指しています。

注) \*は学科ごとのアドミッションポリシーを記載。

## 〈人間文化研究科〉

本研究科は、設置の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のような学生を受け入れます。

### 博士前期課程

1. 専攻する各研究分野について強い志向性と創造力のある人
2. 研究を遂行する上での基礎的学力を有する人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。さらに、臨床心理学分野においては、公認心理師として社会に貢献するために必要な心理学についての学部レベルの学力及び英語力を有する人を選抜するため、口頭試問に加え筆記試験を課します。

また、入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。

### 博士後期課程

1. 専攻する各研究分野に関する十分な学術専門知識を有する人
2. 学術研究能力があると認められる人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。口頭試問においては修士論文等や研究計画書を基にした質疑応答を通して、学術専門知識、学術研究能力、総合的思考力を判断します。

## (2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人純心女子学園第4期中期目標・計画（2022年～2026年度）を策定し、「5年後にありたい姿」として、8割以上の学生が本学での教育及び学生生活に満足できるようにすること、学生の望む成長を教職員全員が全力でサポートすることを中期戦略目標に設定した。2022年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による影響が払拭されず実施困難となった行動計画もあったが、それぞれの項目で点検・評価を実施した。2022年度の点検・評価を踏まえ、次年度以降の行動計画実施に向け、引き続き全力で取り組んでいく。

## (3) その他

2022年度における各事業所における主な活動は次のとおりである。

### 長崎純心大学

#### 1. 教育・研究

- ① 2022年度より学長補佐の職制を設け、坂本久美子教授が就任した。
- ② 7月10日にドイツ連邦共和国外務大臣一行が文教町キャンパス江角記念館を訪問され、本学学生13名と平和に関するディスカッションを行った。
- ③ 江角ヤス学園長の朝礼講話集『ほんものに成るのよ』（山田幸子理事長編）を再刊した。
- ④ 出張講義（9月14日：長崎県立大村高校へ出張講義（濱崎先生）、9月29日：佐賀県立伊万里高校（妹尾先生）、10月24日：長崎県立長崎北陽台高校（足立先生・田中先生））に出向いた。
- ⑤ ジェイムズ・ノラン教授（ウイリアム大学社会学教授）を客員研究員として受け入れた。
- ⑥ 文部科学省 SPARC 事業に申請したが、不採択となった。
- ⑦ 2月3日に文教町キャンパス江角記念館において、駐日欧州連合（EU）大使及びEU加盟国大使と本学学生との平和交流を行った。
- ⑧ 入学前プログラムとして、2月4日と2月25日にリモート交流座談会、3月6日に学科別プレ講座を実施した。
- ⑨ 科学研究費補助金は、学術変革領域研究（A）1件、学術変革領域研究（B）1件、基盤研究（B）2件、基盤研究（C）3件、研究活動スタート支援1件が交付された。

## 2. 学生・キャリア支援関係

- ① 高等教育修学支援制度に対応した。
- ② 4月1日の入学式は、午前文化コミュニケーション学科と地域包括支援学科、午後はこども教育保育学科と大学院に分かれ、ソーシャルディスタンスを保ちながら、挙行了。また、3月17日の卒業証書・学位記授与式は、浦上カトリック教会で、3年ぶりに感謝ミサを捧げ学位記授与式を挙行了。
- ③ 学生発案の企画として、数日間キッチンカーにより昼食の販売を行った。
- ④ 純心祭を10月/22日(土)・23日(日)に対面により実施した。
- ⑤ コロナ対策として、入学後当初1週間は、通学のための貸切バスを運行した。
- ⑥ コロナ感染予防として、学食にパーテーションを設置し、職員が交代で拭き取りを行った。
- ⑦ 小学校教員採用試験に30名合格、中学校教員採用試験(国語)に5名、中学校教員採用試験(英語)に1名、高等学校教員採用試験(英語)1名が合格した。
- ⑧ 国家試験対策を強化し、社会福祉士に30名、精神保健福祉士に7名、介護福祉士10名、公認心理師に3名が現役で合格した。社会福祉士においては、九州内私立大学現役合格率1位となった。

## 3. 教職員研修

- ① 8月24日(水)にリモートによるSD研修会を実施した。  
「新任教職員紹介」「決算状況」「第4期中期目標・中期計画」の報告、午後「教育」「研究実践(研究環境)」「地域貢献」「学生支援」「学生募集」「管理運営」「経営基盤」の分科会に分かれてディスカッションを行った。なお、このSD研修会には、鹿児島純心女子大学の職員もオブザーバーとして参加した。
- ② 3月9日(木)に対面によるFD研修会を実施した。  
学部長より第1部「本学における教学マネジメントはどうあるべきか」と題して講演があった。第2部は「本学における特別な配慮を必要とする学生支援の現状と課題」をテーマに特別な配慮を必要とする学生支援室及び学事課からの報告と問題提起があった。午後は教員を中心に小グループに分かれてディスカッションを行った。

## 4. 入試広報活動

- ① 2022年度は人文学部の入学定員280名に対し、文化コミュニケーション学科67名、地域包括支援学科93名、こども教育保育学科90名、計250名が入学した。
- ② 年間を通して、進学ガイダンス、高校内ガイダンス、高校訪問を行い入試広報活動に努めた。
- ③ 長崎県立小浜高校PTA(6/21)、長崎市立長崎商業高等学校PTA(6/30)、長崎総合科学大学付属高校3年生(7/6)、長崎県立長崎鶴洋高校1年生(7/7)、大村城南高校1年生(10/26)が本学を訪問した。
- ④ 6月29日(水)に進学懇談会を開催し、県内外高等学校25校が来学された。
- ⑤ オープンキャンパスは、7月30日=101名、8月27日=98名、9月3日=99名、3月=71名の参加があった。

## 5. 施設整備・改修

- ・C棟からL棟 渡り廊下の改修
- ・F棟外壁工事
- ・教室のLED化
- ・運搬用トラック購入
- ・学生駐車場(E駐車場)
- ・S棟駐車場ゲート取り替え
- ・博物館燻蒸作業
- ・ネットワークシステム再構築(2023年度継続)
- ・サーバー室UPS無停電電源装置
- ・情報演習室情報機器更新
- ・WEB学生カルテシステム新規構築(2023年度継続)
- ・WEBシラバスシステム再構築
- ・給与システム更改
- ・就業システム更改

## 6. 生涯学習及び地域貢献・地域連携

- ① 博物館のInstagramアカウントを開設した。
- ② 全天候型子ども遊戯施設めぐりドームでのイベントにおける本学学生派遣等の連携協力。
- ③ 6月6日に川平地区の自治会長と意見交換会を行った。長崎自動車へ路線バス増便の陳情に行った。
- ④ Gnadenberg主催「エディット・シュタインとアウシュヴィッツ展」7/27~8/31から博物館で開催。オープニングセレモニーにドイツ総領事ご夫妻が出席された。

- ⑤ 第 23 回 Junshin Cup 英語オーラルコミュニケーションコンテストを開催し、県内高校生 12 名が参加した。
- ⑥ 12 月 10 日に長崎歴史文化博物館において、本学キリスト教文化研究所主催でジェイムズ・ノラン教授による「原爆とテクノロジーの規範性—The Atomic Bomb and the Technological Imperative」と題した講演会を実施した。
- ⑦ 精道三川台高校テニス部が練習のため、テニスコートの利用があった。
- ⑧ 地域連携センターにおいて、カウンセリング、訪問相談等カウンセリグ業務を実施した。
- ⑨ 2022 年度は次の公開講座等を開催した。
  - ・長崎学講座「長崎における大殉教」 5 月 28 日～7 月 16 日 8 回の講義+バス研修
  - ・TOEIC に備える特別セミナー2022 Part1 5 月 21 日 LewisIII, Dawson Roy 講師
  - ・心理教育相談センター講演会「司法精神医療における心理職の役割～医療観察法の基づく精神病院での実践から～」 5 月 21 日 菊池安希子 武蔵野大学教授
  - ・第 60 回長崎・キリシタン文化研究会 6 月 4 日 I 部「長崎・キリシタン文化研究会の成り立ち」片岡瑠美子学長 II 部「日本二十六聖人の列聖 160 年を迎えて～その列聖の意義と影響」デ・ルカ・レンゾ神父（イエズス会日本管区長）
  - ・第 32 回児童教育支援センター講演会「子どもの心に本をとどける～わくわく、わいわい、読書へいざなうアニメーション～」 6 月 4 日 岩辺泰吏 元明治学院大学教授
  - ・TOEIC に備える特別セミナー2022 Part2 7 月 30 日 LewisIII, Dawson Roy 講師
  - ・TOEIC に備える特別セミナー2022 Part3 10 月 8 日 LewisIII, Dawson Roy 講師
  - ・第 37 回長崎学一般公開講座「新発見！シーボルト新資料より」10 月 22 日 宮坂正英客員教授
  - ・第 33 回児童教育支援センター講演会「なべさんのパネルシアターセミナー～観て、演じて、楽しいパネルシアターの世界～」 11 月 12 日 渡辺繁治氏（パネルシアター劇団「DAN パネ団」主宰者）
  - ・第 45 回純心英語教育公開講座「子どもたちはどうしたら英語に興味を持つの？」11 月 20 日 山崎祐一長崎県立大学教授
  - ・TOEIC に備える特別セミナー2022 Part4 12 月 3 日 LewisIII, Dawson Roy 講師

## 7. その他

- ① 4 月 30 日（土）に純心女子高等学校 3 年生との「高大連携プログラム～大学の研究室を知る～」プログラムを実施し、110 名余りの生徒が来学。生徒による探究発表及び質疑応答を行ったあと、教員の各研究室に移動し、各教員から研究内容、大学で学ぶとはどういうことかを感じてもらった。なお、生徒による報告会が 6 月 15 日、6 月 18 日に行われ、大学教員も出席した。  
3 月/18 日（土）にもこのプログラムが実施され、純心女子高等学校 2 年生 120 名が来学した。
- ② 片岡瑠美子学長が令和 4 年春の叙勲で、「瑞宝中綬章」を授章。5 月 10 日に長崎県警察本部において伝達式が行われた。
- ③ 8 月 31 日に事務職員を中心とした防災訓練を実施した。

## 純心女子高等学校・純心中学校

### 1. 教育活動

#### 1) 令和 4 年度の教育目標 「優しさと強さ」

- ・行って、あなたも同じようにしなさい。（ルカ 10.25～37）
- ・関心を持つ
- ・自分を磨く

#### 2) コロナ禍における教育活動

- ① 三密を避けての学校行事の縮小実施

月	行 事		内 容
4月	入学式	縮小実施	新入生と保護者、教職員のみ
	遠足	実施	徒歩でビッグNへ
5月	聖母祭	縮小実施	行列実施 高Ⅲ中3体育館 他学年リモート
7月	(高) 校内球技大会	縮小実施	各学年 (本来は全学年)
8月	原爆慰霊祭	縮小実施	ミサ・墓前祭 (教職員・係生徒) 教室リモート
9月	体育大会	縮小実施	グラウンドで実施 高Ⅲ保護者のみ見学
11月	学園祭	縮小実施	高Ⅲ一人につき保護者1名来校可
12月	創立記念ミサ	実施	浦上教会 (高Ⅱのみ学校にてリモート)
	(高2) 修学旅行	実施	関東方面
	(中3) 修学旅行	実施	沖縄から県内に変更 *昨年度延期分
	校内クリスマス会	縮小実施	放送と録画により各教室にて
1月	(高3) ダンス発表会	実施	高3保護者来校
3月	(高3) 卒業式	縮小実施	卒業生と保護者2名まで 高Ⅱのみ参列
	(中) 球技大会	実施	
	(中3) 卒業式	縮小実施	卒業生と保護者2名

## ② 実施できなかった行事について

〔延期〕 中2修学旅行 (2023年12月)

〔中止〕 テレサ高校 (韓国) 交流/パースホームステイ (オーストラリア)

## ③ 校外活動について

- ・高総体・中総体をはじめ、様々な大会は中止なく開催されたが、基本的に無観客あるいは応援人数制限ありで実施された。
- ・運動部関連の活躍としては、(高) 陸上部：各種大会で各種競技上位入賞、インターハイ出場 (個人)、(高) バレー部：県新人大会優勝、九州大会出場、県私学大会優勝、全国大会出場、弓道部：県新人大会優勝、私学全国大会出場 (ベスト8)、空手道部：高総体個人形3位、九州大会出場などがあつた。また、(中) バスケットボール部：県中総体優勝、九州大会3位、全国大会出場、(中) バレーボール部：県新人大会3位、九州大会出場、(中) 空手道部：県新人大会個人形優勝などがあつた。
- ・文化部関連の活躍は、(高) 音楽部：九州合唱コンクール県大会金賞、九州大会銀賞、(中) コーラス部：九州合唱コンクール県大会金賞、九州大会金賞、吹奏楽部：県吹奏楽コンクール銀賞などがあつた。音楽関連では声楽、ピアノなど個人の活躍も目立った。

## ④ その他の活動

- ・個人でも各種コンクール (作文、書道、川柳、調理など) に参加し、入賞を果たした。
- ・図書関連、探究・研究発表に参加している。

## 3) 特色ある教育としての主な活動 (探究活動と平和教育)

① 中学アドバンスコース SDGs の課題に取り組む。

② 高校Ⅰ、Ⅱ類コースの探究活動の継続 / 高校Ⅰ、Ⅱ年全学年による探究活動

長崎純心大学での発表と研究室訪問 (Ⅲ年 2022年5月に実施 Ⅱ年 2023年3月に実施)

③ 世界平和のためのロザリオの祈り (1連のみ) の継続とロシアとウクライナの戦禍に心を合わせ、アシジの聖フランシスコの「平和を求める祈り」の実践

1. 8月9日「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」(長崎市主催 於：平和公園) が縮小され、高校音楽部が「千羽鶴」を合唱
2. 8月9日本校における「原爆慰霊祭 (墓前祭)」 ミサは教職員のみで参列。墓前祭は係生徒と教職員のみ参列 (生徒たちは教室にて墓前祭のみリモート参加、その後、校長による放送講話、11時02分に黙祷、世界平和を祈る。

## 2. 教職員研修

- ①「学びを止めない」ーコロナ禍における純心での豊かな学び（4/27 実施）
- ② 入試広報（渉外担当）から学校訪問報告（情報共有）と新コース説明（7/28 実施）
- ③ 純心版「18歳のプロフィール」の策定（8/23 実施）

## 3. 施設整備・改修

- ①慈悲の聖母周辺の整備（6月～8月）
- ②ロザリオ館トイレの洋式化（7月～10月）
- ③ロザリオ館玄関、ロザリオ館屋上、体育館それぞれの防水・塗装（8月～10月）
- ④セミナーハウス 用具小屋の補修（2023年2月）

\*ベタニア館（新学生寮）について

前年度、小笹アパート（大手町）で寮生活を送った在寮生4名と新寮生6名（高Ⅱ1名、高Ⅰ5名）計10名と、寮監2名（専任1名、契約職員1名）でスタートした。

## 4. 総括

令和5年度にむけてのコース改革、新コース設置確定のための1年を過ごしてきた。

若手教員で構成された新コース検討推進委員会のメンバーによって、アカデミックプロジェクト（AP）、グローバルプロジェクト（GP）、キャリアプロジェクト（CP）の3コースの設置となった。「プロジェクト」という名称からもわかるように、これは、学校や教師が決めた枠に生徒が従っていくのではなく、生徒が自分たちで作りに上げていこうとする生徒中心の、学校が生徒と一緒にやっていこうとする学校の意志表明である。

また、どのような生徒を育て、社会に送り出そうとしているのかを真剣に問い、そのためにどのような学びをしていくかを思い描きながら、特徴あるコース設定を推し進めてきたが、同時に、「純心版『18歳のプロフィール』」の策定にも着手し、確定に至った。これは、「心を磨く」「知性を養う」「生きる力を育む」という3項目からなる生徒たちの目標である。卒業までに身につけておく内容になっているので、生徒自身のものでありつつ、教職員側からすれば、育てたい生徒像でもある。このように、令和5年度のスタートに、生徒たちのために新しく始める「プロジェクト」と生徒たちのための「純心スピリット」の準備ができたことは嬉しい限りである。

ここ数年、生徒募集に苦戦し、生徒数減少となってしまう現状と向き合ってきたので、気持ちを切り換え、この一年は手分けして小学校、中学校訪問を実施し、新コースの説明と、変わっていきこうとしている純心と変わらない良き純心の伝統をPRしてきた。また、部活動が盛んである特徴を宣伝しながらの募集活動も続けた。実際に、部活動では各種大会等で優秀な成績を出す活躍をしており、それぞれの教員が持っている能力、時間と労力を方々で惜しみなく差し出して募集活動に取り組んだ。

この一年の生徒たちの活躍については、部活動に限らず、興味・関心があることに対する個人やグループでの取り組みも見られるようになり、教員も快く支援し、それぞれの個性が生かされたものとなっている。今後、このような取り組みの幅を広げていけたらと思う。

毎月2回ほどの施策検討会議（AGS、大学、中高）においては、「生徒数（入学者数）を増やし、財政収支を改善する」目的で会議し、授業料の値上げ（2023年度新入生から）とスクールバスの新路線開発（三重・時津・長与線 2023年4月より運行）に踏み切ることができた。

### 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

#### 1. 認可定員250名

園児数状況

幼保連携型認定こども園 長崎純心大学附属純心幼稚園	利用定員	R5(2023). 3. 1現在	備考
	230名	246名	

## 2. 保育・教育目標

神様の似姿に創られたいのちを大切に、神様にも人にも喜ばれる人を育てることを目指して教育保育に努めた。毎日の教育保育の示唆としてお祈りをする子ども、心の優しい子ども、生きる力を持つ子どもを育てることを目標に“神さまから託されている 子どもを通して私は伝えたい！！愛されること 愛すること 活きる喜び”をミッションとして掲げ、を純心幼稚園の教育の実践に努めてきた。

## 3. 教育・保育内容

神さまの似姿として創られたいのちを大切に、人に対する愛情と信頼する心を育てることを目指した。

- ① 一人ひとりの家庭環境を見極め、教育と養護のバランスに配慮しながらモンテッソーリ教育の充実を図った。
- ② 子どもの様々な内面の要求を満たし、モンテッソーリ教育を通して宗教・体育・絵画・音楽を通して生命の保持および情緒の安定を図った。
- ③ 基本的な生活習慣や言葉を身につけ、一人で出来ることに喜びを持てるように自立を促した。

## 4. 給食の実施状況

- ① 毎月1回の給食検討会を持ち、コロナ禍の中でも楽しい食事の時間となるよう配膳、行事食、個別の対応を継続した。
- ② アレルギー体質の子どもへの対応は、保護者と栄養士の個別対応を実施し医師の診断書のもとに事故のないよう全職員に周知し配慮したが、配慮不足で配膳を誤った事例があり周知方法の再検討を行った。
- ③ 愛情弁当の日を、毎月土曜日を含め3~4回程度。2年ぶりの試食会を行い保護者のアンケートからレシピを頂きたいとの意見も出され食育への関心が高くなって来た。今後は咀嚼、嚥下等が難しい園児が少しでも楽しい食事が出ることをついでのメニュー、食材等の検討を行う。

## 5. 教職員研修

- ・ECEQ公開保育を10月21日（金）に実施し、コーディネーターの先生方を中心に近隣の主任の先生方、園長先生方とのディスカッションを通して、共に学びを深める機会をいただくことができた。
- ・キャリアアップ研修該当者全員は、Web研修でまとめて受講を完了した。
- ・モンテッソーリ教育体育コース受講は見送り、長期休暇中に体育研修に参加し新年度に備えた。
- ・未満児のアシスタントコース・ワークショップはコロナ禍のためZoom研修となったが、1名受講し、ディプロマ取得に繋がった。
- ・以上児のモンテッソーリ教育は純心大学の養成コースと外部の研修情報を共有し、短時間で園内での学びを深めた。
- ・モンテッソーリ宗教教育研修会は開催されなかったが、これまでの研修を共有し、子どもたちへの提供を継続した。

## 6. 小学校連携

- ・今年度は小学校訪問を実施することができ、校内の見学や体験を通して、小学校入学への期待を持つことができた。今後は交流を予定している。
- ・今年度も困り感を持つ園児に対しての巡回相談が多数となった。また、保護者からの要請で小学校の担当者と連携して専門機関の指導と園訪問を依頼するなど事例も出てきた。これまで通り、要録と併せて入学までの連携と移行について、園児が安心して小学校生活を送れるよう配慮した。

## 7. 長崎純心大学との連携

- ・今年度は純心大学の塩月ゼミ生との活動も再開し、全クラスでの年齢別活動の中で、子どもたちが楽しく活動に取り組み学生との交流を図ることができた。

## 【Ⅲ】財務の概要

### ■2022年度決算の概要

純心女子学園の2022年度財務の概要についてご報告いたします。

本学園は2022年度の計算書類について、2023年5月末日に文部科学省に提出しております。提出までの経緯は以下のとおりです。

- ①2022年度事業計画及び予算に従い執行し、日々の諸活動を計数化
- ②公認会計士による実地調査及び書類調査（2023年5月24日報告書受理）
- ③公認会計士と本学園監事との意見交換等による連携
- ④本学園監事による計算書及び財務状況の監査実施

### 2022年度決算の特徴

- ①C棟～L棟間の渡り廊下改修工事、F棟の外壁塗装工事の実施、情報演習室の機器の更新。
- ②中学校高等学校においてロザリオ館のトイレ改修工事、ロザリオ館・体育館の防水・塗装工事の実施。
- ③幼稚園において園庭側園舎外壁塗装工事、空調設備の更新工事の実施。

以上が2022年度の主な特徴であり、収支状況に影響を与えることとなりました。

### 1) 資金収支計算書

資金収支計算書は年間を通しての資金の収入と支出を表すとともに、収支の顛末を明確にするものです。2022年度諸活動の資金収入規模は、繰越金を除き約28億8千万円（前年度比約1億6千万円の減額）、予算比約8千万円の増額となりました。

支出規模は、繰越金を除き約27億1千万円（前年度比約4億2千万円の減額）、予備費も含め予算比約3億4千万円の減額となりました。

従って、翌年度繰越支払資金は約10億7千万円（前年度繰越支払資金比約1億7千万円増額）となりました。

### ○資金収入の部

資金収入の主な項目は、学生生徒等納付金・手数料・寄付金・補助金・受取利息・配当金等です。

#### 学生生徒等納付金収入

授業料収入や入学金収入等です。

約13億9千万円となりました。

#### 手数料収入

入学検定料収入や証明手数料収入などです。

約1千8百万円となりました。

#### 寄付金収入

寄付金収入は、約2千4百万円となりました。

2016年度から、創立100周年に向けて「純心マッチ基金」を開始いたしました。

「純心マッチ基金」では、80名約6百万円のご寄付をいただいております。

貴重なご寄付をいただき、誠に感謝申し上げます。

	寄付数 (件)	金額 (円)
純心マッチ基金	80	6,222,391
教育経費	12	15,103,918
施設設備	4	2,373,732
合計	96	23,700,041

### 補助金収入

補助金は、納付金に次ぐ第2の財源となっています。学園全体の補助金内容は、国庫補助金と地方公共団体補助金等を合わせて総額約7億3千万円となりました。

うち、約1億1千万円は大学等における修学支援に関する法律による授業料等減免費交付金、約1千1百万円は中学高校のトイレ改修に対する補助金です。

### 受取利息・配当金収入

受取利息・配当金収入は、約4千1百万円となりました。

### ○資金支出の部

資金支出の主な項目は、人件費・教育研究経費・管理経費・施設設備関係・資産運用等です。

#### 人件費支出

退職金支出を含む教職員人件費支出は約14億5千万円となりました。

#### 教育研究経費・管理経費

教育研究経費・管理経費は、約6億6千万円となりました。

うち奨学費支出が約1億8千万円となっております。

#### 施設設備関係支出

施設設備関係支出は、約7千5百万円となりました。

#### 資産運用支出

資産運用支出は主に引当資産積立です。基本金計画に基づき第2号基本金引当特定資産へ6千5百万円、第3号基本金引当特定資産へ約5百万円繰り入れました。

また、約1千7百万円を減価償却引当特定資産として繰り入れ、将来の再取得に備えました。

運用資産が償還となった4億円は同額資産運用し支出いたしました。

## 2) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金の調達と使用の内容を明確にすることを目的とし、企業会計のキャッシュフロー計算書に相当するものです。1) で説明した資金収支計算と取引内容及び費目・金額ともにすべて同じものを目的により区分計上したものです。

①教育活動 ②施設設備等活動 ③その他の活動に区分し学校法人の資金体質が分かります。

2022年度①の教育活動資金収支差額は、約1億5千万円となりました。

## 3) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、教育活動の収支を表す教育活動収支差額が約8千万円の支出超過となりました。大学においては2018年度に3学科に統合し、さらに2019年度新入学生からは全学科で男女共学とし、また中学校・高等学校ではICT教育に力を入れており、引き続き魅力ある学園作りを推進してまいります。

## 4) 貸借対照表

「貸借対照表」は、2022年度末日における学園の財政状態と資産の構成を明らかにする財産一覧で、長期的な運営の方向性を決める判断材料となります。また、資産負債のバランスの状況を把握することができます。総資産は約137億円、純資産は約128億円となりました。

従って、資産の約93%は自己資金であり健全性は確保されております。

## 学校法人会計と企業会計の違いについて

事業活動を通じ、企業は利益を得ることを目的としていますが、学校法人は教育研究活動を行うことを目的としています。そのため学校法人会計と企業会計には違いがあります。

また、学校法人は教育という公共性の高い事業を行っており、在学生の修学の機会の確保のためにも、学校運営を永続的かつ安定的に行なわなければなりません。したがって、学校法人会計においては中長期的な収支の均衡が理想的であるとされています。

企業会計も学校会計も、一定期間の収支の状況及び一時点での財政の状態を現わす計算書類を作成しますが、その目的の違いから書類の名称や内容が異なります。

### 学校法人会計と企業会計の主な違い

	学校法人会計	企業会計
目的	教育研究活動	利益追求活動
会計基準	学校法人会計基準	企業会計原則
一般原則	真実性の原則	真実性の原則
	複式簿記の原則	正規の簿記の原則
		資本取引・損益取引区分の原則
	明瞭性の原則	明瞭性の原則
	継続性の原則	継続性の原則
		保守主義（安全性）の原則
		単一性の原則
計算書類	資金収支計算書	
	活動区分資金収支計算書	キャッシュフロー計算書
	事業活動収支差額	損益計算書
	貸借対照表	貸借対照表

### 基本金について

学校法人会計の大きな特徴として、企業会計にはない「基本金」という概念があります。

基本金とは、

学校法人が、教育研究活動を行うために必要な資産（校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金等）を継続的に保持するために維持すべきものとして、授業料などの負債性のない収入（基本金組入前当年度収支差額）のうちから組入れた金額です。

### 基本金の種類

- ①第1号基本金 … 設立当初及び新たな学校の設置若しくは、既設の学校の規模の拡大や教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ②第2号基本金 … 将来取得する固定資産に充てるために、事前に計画的、段階的に積み立てる金銭その他の資産の額
- ③第3号基本金 … 奨学基金、研究基金など継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額
- ④第4号基本金 … 恒常的に保持すべき資金として、不測の事態に備える所定の運転資金

## 資金収支計算書

2022年 4月 1日 から  
2023年 3月31日 まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	( 1,387,194,000 )	( 1,388,007,343 )	( △ 813,343 )
手数料収入	( 18,930,000 )	( 18,211,250 )	( 718,750 )
寄付金収入	( 19,264,000 )	( 23,700,041 )	( △ 4,436,041 )
補助金収入	( 699,924,000 )	( 729,957,667 )	( △ 30,033,667 )
国庫補助金収入	263,329,000	302,277,800	△ 38,948,800
地方公共団体補助金収入	248,095,000	235,800,042	12,294,958
施設型給付費収入	188,500,000	191,879,825	△ 3,379,825
資産売却収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
付随事業・収益事業収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
受取利息・配当金収入	( 37,000,000 )	( 41,190,135 )	( △ 4,190,135 )
雑収入	( 91,127,000 )	( 94,722,766 )	( △ 3,595,766 )
借入金等収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
前受金収入	( 141,240,000 )	( 180,573,500 )	( △ 39,333,500 )
その他の収入	( 654,997,000 )	( 663,370,300 )	( △ 8,373,300 )
資金収入調整勘定	( △ 247,257,000 )	( △ 257,281,090 )	( 10,024,090 )
前年度繰越支払資金	( 892,047,815 )	( 892,047,815 )	
収入の部合計	3,694,466,815	3,774,499,727	△ 80,032,912
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	( 1,548,898,000 )	( 1,447,611,090 )	( 101,286,910 )
教育研究経費支出	( 666,755,000 )	( 543,303,752 )	( 123,451,248 )
管理経費支出	( 154,417,000 )	( 121,627,029 )	( 32,789,971 )
借入金等利息支出	( 0 )	( 0 )	( 0 )
借入金等返済支出	( 20,640,000 )	( 20,640,000 )	( 0 )
施設関係支出	( 63,075,000 )	( 32,098,522 )	( 30,976,478 )
設備関係支出	( 76,554,000 )	( 42,379,174 )	( 34,174,826 )
資産運用支出	( 492,000,000 )	( 495,178,054 )	( △ 3,178,054 )
その他の支出	( 19,619,000 )	( 24,392,542 )	( △ 4,773,542 )
	( 0 )		
〔予備費〕	23,000,000		23,000,000
資金支出調整勘定	( △ 20,871,000 )	( △ 19,522,948 )	( △ 1,348,052 )
翌年度繰越支払資金	( 650,379,815 )	( 1,066,792,512 )	( △ 416,412,697 )
支出の部合計	3,694,466,815	3,774,499,727	△ 80,032,912

## 活動区分資金収支計算書

2022年 4月 1日 から  
2023年 3月31日 まで

(単位 円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,388,007,343
		手数料収入	18,211,250
		経常費等補助金収入	718,411,667
		教育活動資金収入計	2,240,679,335
	支出	人件費支出	1,447,611,090
		教育研究経費支出	543,303,752
		調整勘定等	20,326,629
		科 目	金額
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	11,546,000
		施設整備等活動資金収入計	373,499,732
	支出	施設関係支出	32,098,522
		設備関係支出	42,379,174
		施設整備等活動資金支出計	506,437,696
			差引
		調整勘定等	119,509,000
		施設整備等活動資金収支差額	△ 13,428,964
		科 目	金額
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0
		小計	84,849,027
		受取利息・配当金収入	41,190,135
		その他の活動資金収入計	126,039,162
	支出	借入金等返済支出	20,640,000
		小計	86,131,146
		借入金等利息支出	0
			調整勘定等
		支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	174,744,697
		前年度繰越支払資金	892,047,815
		翌年度繰越支払資金	1,066,792,512

## 事業活動収支計算書

2022年 4月 1日 から  
2023年 3月 31日 まで

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入	学生生徒等納付金	( 1,387,194,000 )	( 1,388,007,343 )	( △ 813,343 )
		手数料	( 18,930,000 )	( 18,211,250 )	( 718,750 )
		寄付金	( 19,594,000 )	( 21,752,920 )	( △ 2,158,920 )
		経常費等補助金	( 680,595,000 )	( 718,411,667 )	( △ 37,816,667 )
		国庫補助金	244,000,000	291,237,800	△ 47,237,800
		地方公共団体補助金	248,095,000	235,294,042	12,800,958
		施設型給付費	188,500,000	191,879,825	△ 3,379,825
		付随事業収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		雑収入	( 88,423,000 )	( 92,018,806 )	( △ 3,595,806 )
			教育活動収入計	2,194,736,000	2,238,401,986
教育活動支出の部	事業活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	( 1,500,400,000 )	( 1,419,017,696 )	( 81,382,304 )
		教育研究経費	( 872,732,000 )	( 749,718,390 )	( 123,013,610 )
		管理経費	( 183,293,000 )	( 150,438,651 )	( 32,854,349 )
		徴収不能額等	( 122,000 )	( 121,250 )	( 750 )
			教育活動支出計	2,556,547,000	2,319,295,987
教育活動収支差額		△ 361,811,000	△ 80,894,001	△ 280,916,999	
教育活動外収入の部	事業活動収入	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	( 37,000,000 )	( 41,202,422 )	( △ 4,202,422 )
		その他の教育活動外収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		教育活動外収入計	37,000,000	41,202,422	△ 4,202,422
	事業活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	( 0 )	( 0 )	( 0 )
その他の教育活動外支出		( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額		37,000,000	41,202,422	△ 4,202,422	
経常収支差額		△ 324,811,000	△ 39,691,579	△ 285,119,421	
特別収支	事業活動収入	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	( 0 )	( 9,620,000 )	( △ 9,620,000 )
		その他の特別収入	( 19,329,000 )	( 14,406,319 )	( 4,922,681 )
		特別収入計	19,329,000	24,026,319	△ 4,697,319
	事業活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	( 10,150,000 )	( 10,385,115 )	( △ 235,115 )
その他の特別支出		( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	特別支出計	10,150,000	10,385,115	△ 235,115	
特別収支差額		9,179,000	13,641,204	△ 4,462,204	
〔予備費〕		( 0 )			
基本金組入前当年度収支差額		△ 338,632,000	△ 26,050,375	△ 312,581,625	
基本金組入額合計		△ 179,147,000	△ 120,135,890	△ 59,011,110	
当年度収支差額		△ 517,779,000	△ 146,186,265	△ 371,592,735	
前年度繰越収支差額		140,563,516	140,563,516	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 377,215,484	△ 5,622,749	△ 371,592,735	
(参考)					
事業活動収入計		2,251,065,000	2,303,630,727	△ 52,565,727	
事業活動支出計		2,589,697,000	2,329,681,102	260,015,898	

## 貸借対照表

2023年 3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	( 12,520,894,742 )	( 12,629,823,318 )	( △ 108,928,576 )
有形固定資産	< 6,379,580,579 >	< 6,549,847,145 >	< △ 170,266,566 >
特定資産	< 5,927,517,441 >	< 5,866,179,451 >	< 61,337,990 >
その他の固定資産	< 213,796,722 >	< 213,796,722 >	< 0 >
流動資産	( 1,163,629,622 )	( 1,123,841,948 )	( 39,787,674 )
資産の部合計	13,684,524,364	13,753,665,266	△ 69,140,902
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	( 653,367,109 )	( 699,896,543 )	( △ 46,529,434 )
流動負債	( 259,428,213 )	( 255,989,306 )	( 3,438,907 )
負債の部合計	912,795,322	955,885,849	△ 43,090,527
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	( 12,777,351,791 )	( 12,657,215,901 )	( 120,135,890 )
第1号基本金	11,061,173,710	11,011,371,810	49,801,900
第2号基本金	981,000,000	916,000,000	65,000,000
第3号基本金	559,178,081	553,844,091	5,333,990
第4号基本金	176,000,000	176,000,000	0
繰越収支差額	( △ 5,622,749 )	( 140,563,516 )	( △ 146,186,265 )
純資産の部合計	12,771,729,042	12,797,779,417	△ 26,050,375
負債及び純資産の部合計	13,684,524,364	13,753,665,266	△ 69,140,902

# 財 産 目 録

2023年 3月31日

I 資産総額	13,684,524,364 円
内 基本財産	6,379,580,579 円
運用財産	7,304,943,785 円
II 負債総額	912,795,322 円
III 正味財産	12,771,729,042 円

(単位 円)

区 分	金 額
資 産 額	
1. 基 本 財 産	6,379,580,579
土 地	115,959.03 m <sup>2</sup> 509,697,513
建 物	49,750.21 m <sup>2</sup> 4,558,477,237
図 書	328,416 冊 1,116,550,779
教具・校具・備品	2,731 点 146,587,027
そ の 他	152 基 48,268,023
2. 運 用 財 産	7,304,943,785
預 金 ・ 現 金	1,066,792,512
そ の 他	6,238,151,273
資 産 総 額	13,684,524,364
負 債 額	
1. 固 定 負 債	653,367,109
長 期 借 入 金	291,937,500
退職給与引当金	361,429,609
2. 流 動 負 債	259,428,213
短 期 借 入 金	20,640,000
そ の 他	238,788,213
負 債 総 額	912,795,322
正味財産 (資産総額-負債総額)	12,771,729,042

(注) 土地の評価基準は、取得価額基準による。償却資産の評価基準は帳簿価額による。

# 監査報告書

令和5年5月8日

学校法人 純心女子学園  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 純心女子学園

監事

松下 清 

監事

浦 穂美 

私たち監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人純心女子学園寄附行為第15条第1項の規定に基づき、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度における学校法人純心女子学園の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行いました。その結果について、次のとおり報告します。

## 記

### 1. 監査の方法及び内容

(1) 学校法人の業務並びに理事の業務執行の状況については、理事会及び評議員会に出席し、業務執行状況の適法性及び妥当性について確認しました。

また、理事長、学長、校長、園長等とそれぞれ面談し、職務の執行状況等について説明を受け、意見交換を行うとともに、会議録等について閲覧しました。

(2) 財産の状況については、財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、事業活動収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表）について検証しました。

また、会計監査人から説明を受け、意見交換を行うなど連携を図りました。

### 2. 監査の結果

(1) 学校法人の業務に関しては、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

なお、大学、高等学校、中学校の入学者はいずれも定員に達していない状況にある。学園の特色や魅力の発信、学生・生徒の募集のあり方など、入学者の定員確保に向け一層取り組む必要がある。

(2) 財産の状況に関しては、財産目録及び計算書類について、会計諸帳簿の記載金額と合致し、記帳、計算ともに正確に行われており、適正に表示しているものと認めます。

(3) 理事の業務執行の状況に関しては、適正に行われており、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## 資金収支計算書の経年比較

(単位：円)

収入の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	1,332,885,192	1,336,498,713	1,376,071,240	1,409,184,074	1,388,007,343
手数料収入	20,374,660	22,140,870	21,611,130	18,624,230	18,211,250
寄付金収入	11,825,886	28,058,961	44,362,538	11,770,809	23,700,041
補助金収入	717,391,671	558,271,889	675,739,557	839,819,181	729,957,667
資産売却収入	101,440,000	100,624,000	21,484,000	4,500,000	0
付随事業・収益事業収入	132,000	0	0	0	0
受取利息・配当金収入	43,188,764	42,279,704	35,888,462	44,777,092	41,190,135
雑収入	64,118,307	108,895,888	81,104,479	110,071,775	94,722,766
借入金等収入	0	0	0	220,000,000	0
前受金収入	191,108,500	221,757,500	197,631,500	172,619,500	180,573,500
その他の収入	389,146,036	188,730,927	592,372,309	625,652,492	663,370,300
資金収入調整勘定	△ 348,044,898	△ 271,985,466	△ 256,108,617	△ 416,627,973	△ 257,281,090
前年度繰越支払資金	692,353,089	725,502,333	866,967,721	975,919,209	892,047,815
収入の部合計	3,215,919,207	3,060,775,319	3,657,124,319	4,016,310,389	3,774,499,727

支出の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	1,449,529,447	1,491,887,290	1,387,226,556	1,467,022,438	1,447,611,090
教育研究経費支出	380,481,588	424,622,699	469,274,052	475,764,587	543,303,752
管理経費支出	92,588,495	103,297,113	113,367,745	176,216,319	121,627,029
借入金等利息支出	83,280	0	0	0	0
借入金等返済支出	28,687,000	10,640,000	10,640,000	10,640,000	20,640,000
施設関係支出	343,996,200	32,682,581	85,420,802	311,351,460	32,098,522
設備関係支出	19,089,500	42,465,372	24,349,407	41,405,129	42,379,174
資産運用支出	131,837,489	88,996,907	593,845,331	640,993,168	495,178,054
その他の支出	64,934,749	18,339,229	19,230,116	23,740,681	24,392,542
資金支出調整勘定	△ 20,810,874	△ 19,123,593	△ 22,148,899	△ 22,871,208	△ 19,522,948
翌年度繰越支払資金	725,502,333	866,967,721	975,919,209	892,047,815	1,066,792,512
支出の部合計	3,215,919,207	3,060,775,319	3,657,124,319	4,016,310,389	3,774,499,727

## 活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位：円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,004,202,716	2,042,262,321	2,165,348,244	2,255,729,069	2,240,679,335
教育活動資金支出計	1,922,599,530	2,019,807,102	1,969,868,353	2,119,003,344	2,112,541,871
差引	81,603,186	22,455,219	195,479,891	136,725,725	128,137,464
調整勘定等	138,924,785	△ 8,585,904	28,187,670	△ 81,358,220	20,326,629
教育活動資金収支差額	220,527,971	13,869,315	223,667,561	55,367,505	148,464,093
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	327,902,000	12,424,954	483,919,602	610,570,000	373,499,732
施設整備等活動資金支出計	491,385,700	157,968,907	642,149,111	884,756,589	506,437,696
差引	△ 163,483,700	△ 145,543,953	△ 158,229,509	△ 274,186,589	△ 132,937,964
調整勘定等	△ 136,165,000	140,999,000	△ 1,793,000	△ 128,081,000	119,509,000
施設整備等活動資金収支差額	△ 299,648,700	△ 4,544,953	△ 160,022,509	△ 402,267,589	△ 13,428,964
小計(教育活動資金収支差額 +施設整備等活動資金収支差額)	△ 79,120,729	9,324,362	63,645,052	△ 346,900,084	135,035,129
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	184,494,816	149,603,441	118,284,303	383,561,267	126,039,162
その他の活動資金支出計	72,224,843	17,385,566	72,932,716	120,853,025	86,131,146
差引	112,269,973	132,217,875	45,351,587	262,708,242	39,908,016
調整勘定等	0	△ 76,849	△ 45,151	320,448	△ 198,448
その他の活動資金収支差額	112,269,973	132,141,026	45,306,436	263,028,690	39,709,568
支払資金の増減額(小計+その 他)	33,149,244	141,465,388	108,951,488	△ 83,871,394	174,744,697
前年度繰越支払資金	692,353,089	725,502,333	866,967,721	975,919,209	892,047,815
翌年度繰越支払資金	725,502,333	866,967,721	975,919,209	892,047,815	1,066,792,512

## 事業活動収支計算書の経年比較

(単位：円)

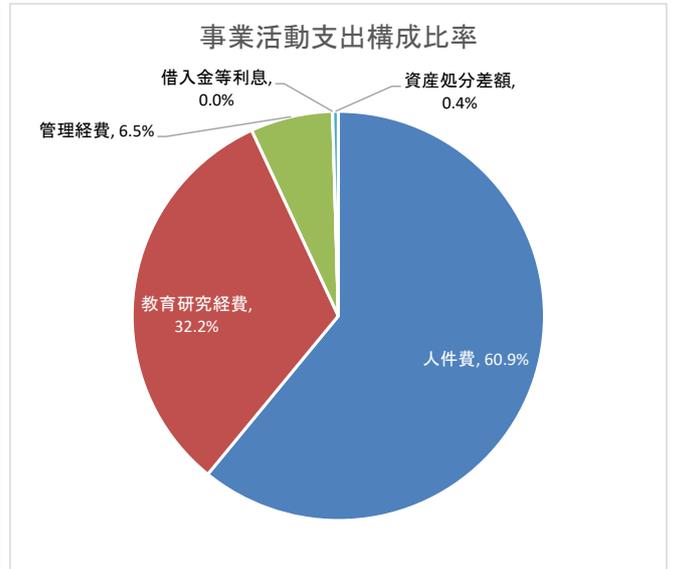
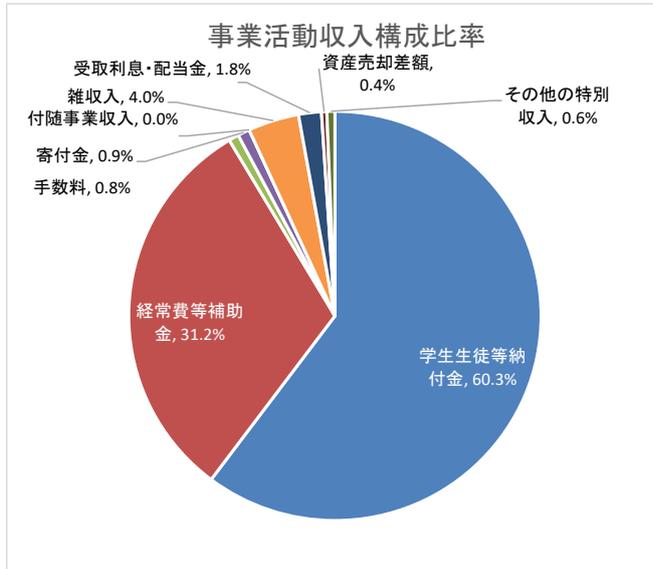
科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	1,332,885,192	1,336,498,713	1,376,071,240	1,409,184,074	1,388,007,343
手数料	20,374,660	22,140,870	21,611,130	18,624,230	18,211,250
寄付金	10,299,886	21,438,961	12,614,838	10,770,905	21,752,920
経常費等補助金	576,392,671	553,287,889	673,946,557	707,078,181	718,411,667
付随事業収入	132,000	0	0	0	0
雑収入	44,831,948	80,372,854	59,987,842	49,888,539	92,018,806
教育活動収入計	1,984,916,357	2,013,739,287	2,144,231,607	2,195,545,929	2,238,401,986
事業活動支出の部					
人件費	1,426,096,350	1,459,390,853	1,358,331,229	1,395,321,854	1,419,017,696
教育研究経費	593,663,757	629,075,520	670,042,171	679,836,790	749,718,390
管理経費	121,011,915	129,746,727	138,731,747	203,513,703	150,438,651
徴収不能額等	0	61,000	0	0	121,250
教育活動支出計	2,140,772,022	2,218,274,100	2,167,105,147	2,278,672,347	2,319,295,987
教育活動収支差額	△ 155,855,665	△ 204,534,813	△ 22,873,540	△ 83,126,418	△ 80,894,001
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	43,198,051	42,288,991	35,897,749	44,786,045	41,202,422
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	43,198,051	42,288,991	35,897,749	44,786,045	41,202,422
事業活動支出の部					
借入金等利息	83,280	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	83,280	0	0	0	0
教育活動外収支差額	43,114,771	42,288,991	35,897,749	44,786,045	41,202,422
経常収支差額	△ 112,740,894	△ 162,245,822	13,024,209	△ 38,340,373	△ 39,691,579
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	0	0	0	9,620,000
その他の特別収入	145,956,019	21,137,875	40,914,889	138,350,426	14,406,319
特別収入計	145,956,019	21,137,875	40,914,889	138,350,426	24,026,319
事業活動支出の部					
資産処分差額	15,844,187	57,121,584	10,637,507	70,643,895	10,385,115
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	15,844,187	57,121,584	10,637,507	70,643,895	10,385,115
特別収支差額	130,111,832	△ 35,983,709	30,277,382	67,706,531	13,641,204
基本金組入前当年度収支差額	17,370,938	△ 198,229,531	43,301,591	29,366,158	△ 26,050,375
基本金組入額合計	△ 241,443,596	△ 114,024,486	△ 159,117,059	△ 103,170,199	△ 120,135,890
当年度収支差額	△ 224,072,658	△ 312,254,017	△ 115,815,468	△ 73,804,041	△ 146,186,265
前年度繰越収支差額	844,180,700	620,108,042	307,854,025	192,038,557	140,563,516
基本金取崩額	0	0	0	22,329,000	0
翌年度繰越収支差額	620,108,042	307,854,025	192,038,557	140,563,516	△ 5,622,749
(参考)					
事業活動収入計	2,174,070,427	2,077,166,153	2,221,044,245	2,378,682,400	2,303,630,727
事業活動支出計	2,156,699,489	2,275,395,684	2,177,742,654	2,349,316,242	2,329,681,102

## 貸借対照表の経年比較

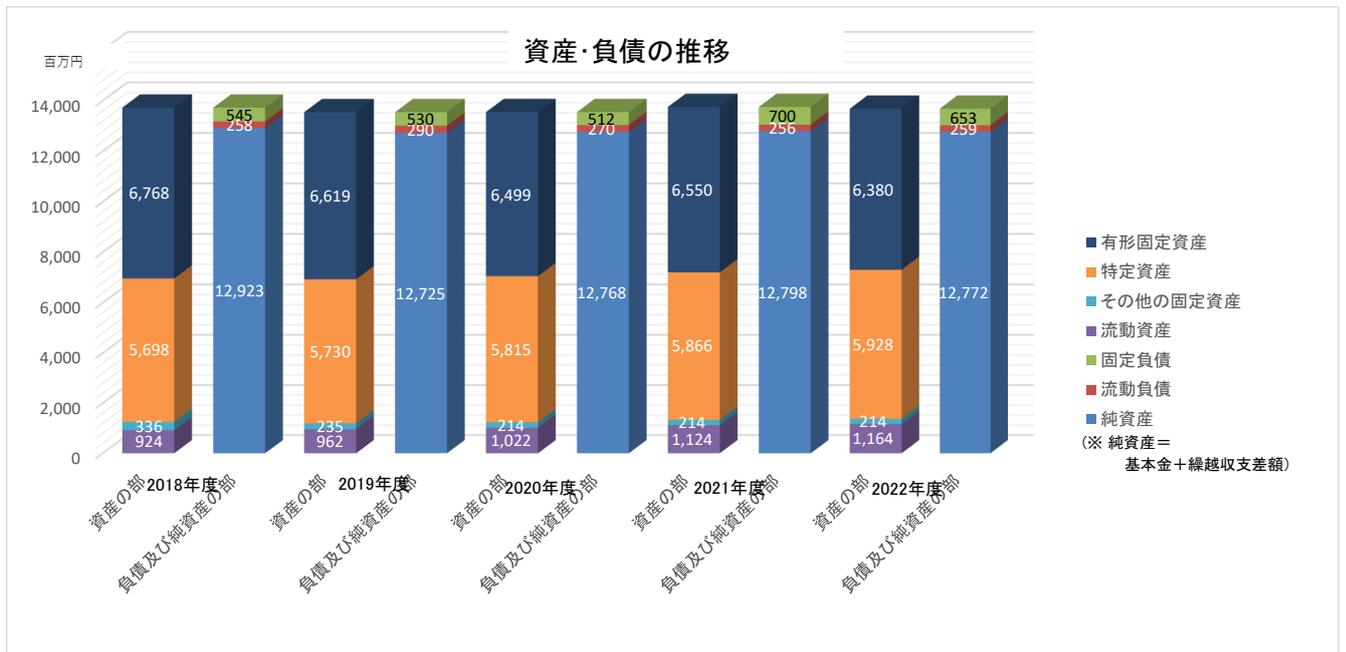
(単位：円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	12,801,838,173	12,583,879,359	12,527,761,938	12,629,823,318	12,520,894,742
流動資産	924,178,775	962,096,268	1,022,474,310	1,123,841,948	1,163,629,622
資産の部合計	13,726,016,948	13,545,975,627	13,550,236,248	13,753,665,266	13,684,524,364
固定負債	544,976,779	530,472,581	512,053,891	699,896,543	653,367,109
流動負債	257,698,970	290,391,378	269,769,098	255,989,306	259,428,213
負債の部合計	802,675,749	820,863,959	781,822,989	955,885,849	912,795,322
基本金	12,303,233,157	12,417,257,643	12,576,374,702	12,657,215,901	12,777,351,791
繰越収支差額	620,108,042	307,854,025	192,038,557	140,563,516	△ 5,622,749
純資産の部合計	12,923,341,199	12,725,111,668	12,768,413,259	12,797,779,417	12,771,729,042
負債及び純資産の部合計	13,726,016,948	13,545,975,627	13,550,236,248	13,753,665,266	13,684,524,364

## 1. 事業活動収支関係



## 2. 貸借対照表関係



## 財務比率推移表

(単位 %) )

比率名称	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1 固定資産構成比率	93.3	92.9	92.5	91.8	91.5
2 有形固定資産資産構成比率	49.3	48.9	48.0	47.6	46.6
3 特定資産構成比率	41.5	42.3	42.9	42.7	43.3
4 流動資産構成比率	6.7	7.1	7.5	8.2	8.5
5 減価償却率	45.1	46.9	48.8	43.4	50.4
6 固定比率	99.1	98.9	98.1	98.7	98.0
7 固定長期適合率	95.1	94.9	94.3	93.6	93.3
8 自己資金構成比率	94.2	93.9	94.2	93.0	93.3
9 繰越収支差額構成比率	4.5	2.3	1.4	1.0	0.0
10 基本金比率	98.8	98.9	99.0	98.7	98.8
11 内部留保資産比率	43.4	44.5	45.9	43.7	46.0
12 運用資産余裕比率	308.1	301.1	314.6	288.5	286.9
13 積立率	114.3	110.8	109.0	107.4	107.0
14 固定負債構成比率	4.0	3.9	3.8	5.1	4.8
15 流動負債構成比率	1.9	2.1	2.0	1.9	1.9
16 総負債比率	5.8	6.1	5.8	7.0	6.7
17 負債比率	6.2	6.5	6.1	7.5	7.1
18 流動比率	358.6	331.3	379.0	439.0	448.5
19 前受金保有率	378.7	390.2	492.7	515.4	590.8
20 退職給与引当預金率	97.7	98.6	100.5	99.9	99.9
21 学納金比率	65.7	65.0	63.1	62.9	60.9
22 寄付金比率	0.7	1.8	2.3	0.7	1.1
23 補助金比率	33.0	26.9	30.4	35.3	31.7
24 人件費比率	70.3	71.0	62.3	62.3	62.2
25 教育研究費比率	29.3	30.6	30.7	30.3	32.9
26 管理経費比率	6.0	6.3	6.4	9.1	6.6
27 借入金等利息比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
28 基本金組入率	11.1	5.5	7.2	4.3	5.2
29 減価償却費比率	11.3	10.4	10.4	10.2	10.1
30 人件費依存率	107.0	109.2	98.7	99.0	102.2
31 基本金組入後収支比率	111.6	115.9	105.6	103.2	106.7
32 事業活動収支比率	106.3	110.7	99.9	104.9	102.2
33 事業活動収支差額比率	0.8	-9.5	1.9	1.2	-1.1
34 経常収支差額比率	-5.6	-7.9	0.6	-1.7	-1.7
35 教育活動収支差額比率	-7.9	-10.2	-1.1	-3.8	-3.6
36 教育活動資金収支差額比率	11.0	0.7	10.3	2.5	6.6